

## 美術の目標

- (1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高めます。
- (2) 対象を深く見つめ感じとる力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばします。
- (3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高めます。

## 評価の観点・方法

### 【評価の観点】

美術では、次の3つの観点で学習の評価をします。

- ① 知識・技能
- ② 思考力、判断力、表現力
- ③ 主体的に取り組む態度

### 【評価の方法】

- ④ 授業中の取組、作品づくりの計画性、作品の提出状況、道具や材料等の準備、授業の約束を守った学習の姿勢を評価します。
- ⑤ 造形的な技能、鑑賞の能力などを評価します。
- ⑥ 一人一人の個性に応じた評価をします。(作品づくりの計画と振り返り(自己評価)などで学習成果を積み重ねていきます)

## 特色ある学習方法

- ① 造形活動への興味・関心が高まり、楽しく美術の活動に取り組み、活動の喜びを味わえるような題材を設定します。
- ② いろいろな造形活動を通して造形能力の基礎を養うと共に、多様な造形表現に興味・関心をもてるような学習を工夫します。
- ③ ビジュアルコミュニケーション能力(視覚的に伝達する能力)を身につけ、美術を生活の中で生かし、愛好する心を育てます。

### 【共通事項】

- ア 形や色彩・材料・光などの性質や感情を理解する。  
 イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえる。

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 学 期	1「美術科オリエンテーション」 「造形表現の基礎」 造形的な感覚、形や色について深めるための基礎的な学習をする。  2「感情ピクトグラム」 視覚伝達デザインの一つであるピクトグラムについて知り、言葉で表せない感情や感覚を視覚化させる方法を学ぶ。  3「マスキング×ローラーアート」 表現方法としてのマスキングとローラーワークを生かした作品づくりを学ぶ。  4「私の好きな風景」(鑑賞)	●美術科の学習の仕方を学ぶ。 造形表現の基礎的な能力を身につける。 ○描くこと・つくることの楽しさ ○造形表現の基本  ●視覚伝達デザインの意義を知り、ピクトグラムの仕組みや特徴を学ぶ。 ○視覚伝達デザインの意義、ピクトグラムの特徴 ○配色の効果や構成の基本を生かしたデザイン  ●多様な平面表現の方法を探る。 ○表現方法としてのマスキングの効果や面白さを味わう。 ○版表現とも関連するローラーワークから平面表現に繋げる。 ●私の好きな風景を描いた作品を鑑賞し、夏休みの課題(風景画制作)への意欲づけを行う。
2 学 期	3「わたし、あの時、あの瞬間」 軽量粘土と芯材を用いて、人の動きや仕草の一コマを立体表現することを学ぶ。  4「自我(画)像を描く～自分らしさと向き合って～」 人物を描く楽しさを味わうと共に、自分自身を深く見つめ、自分のよさや特徴、好みに気づき、創意工夫した自画像を描く楽しさを味わう。	●量感(ヴォリューム)、動勢(ムーヴメント)などを生かして立体表現の面白さを味わう。 ○人間の動きや仕草に興味をもち、人のかたちを表そうとする。 ○軽量粘土の特徴を生かして形づくり、色合いを工夫する。  ●自分自身を深く見つめ、自分なりに創意工夫した自画像を描く。 ○人物を描くポイント、人物の描き方 ○自分自身を深く知る ○自画像の表現の工夫
3 学 期	5「木でつくる」 塊としての木から生活に役立つ道具をつくり出す。	●塊としての木を、彫ったり、削ったり、形を加工・工夫しながら生活の道具に表現することを通して、生活の中の美を感じる。 ○立体としての量感、扱いやすさ、木の温かみを味わう ○生活の中の美、用の美